

<実践報告>

eALPS を活用した文化人類学の授業実践報告 —世界の指導者—

阿久津昌三 信州大学学術研究院教育学系

Report on the Practice of eAlps-Based Lessons of Cultural Anthropology -World Leaders: Heads of Government-

AKUTSU Shozo: Institute of Education, Shinshu University

研究の目的	本報告は、eALPS を活用した 2019 年度前期「文化人類学Ⅱ」の授業実践を報告することで、文化人類学の授業実践に関する事例研究を行うことが目的である。
キーワード	eALPS 文化人類学 授業教材 世界の指導者
実践の目的	文化人類学の ICT 活用
実践者名	阿久津昌三
対象者	信州大学教育学部 2・3・4 年生
実践期間	2019 年前期
実践研究の方法と経過	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要のガイダンス ・世界の指導者 ・新聞と壁新聞づくり ・レポート課題と ICT 活用 ・小論文を書く
実践から得られた知見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを設定する能力を身につけること ・テーマに応じた資料の収集能力を身につけること ・新聞づくりのスキルを学ぶこと ・口頭発表（プレゼンテーション）能力を身につけること ・現代の問題と関連させること

1. はじめに

今、世界の指導者たちの行動がおかしい。昔もおかしかったのかもしれない。民主主義が後退しているのか、それとも権威主義が強化されているのか。民主主義の後退とみられる現象は実は弱っていた権威主義が強化されただけなのか。ポピュリズムという妖怪が世界を徘徊している (Ionescu and Gellner 1969)。

アメリカのトランプ大統領、中国の習近平国家主席、ロシアのプーチン大統領、北朝鮮の金正恩最高国家代表。アフリカ諸国をあげれば、ルワンダのカガメ大統領、ウガンダのムセベニ大統領、スーダンのバシール前大統領。独立解放運動の「英雄」もやがて欧米諸国から「独裁者」とよばれて批判されている。リビアのカダフィ大佐、ジンバブエのムカベ前大統領。長期政権の独裁者たちも次々と舞台を退いている。枚挙にいとまがない。

2019 年度前期「文化人類学Ⅱ」の授業では「世界の指導者」というテーマをとりあげた。本報告は、eALPS を活用した 2019 年度前期「文化人類学Ⅱ」の授業実践を報告することで、文化人類学の授業実践に関する事例研究を行う。なお、2015 年度後期及び 2016 年度後期「文化人類学Ⅰ」でとりあげた「世界のおもな農作物」「世界のおもな家畜」の授業実践報告については阿久津 (2017) を参照されたい。

2. 世界の指導者①

2.1 「世界の指導者」の新聞づくり

第 1 回の授業では授業概要のガイダンスを行った。

第 2 回の授業では世界の指導者に関する文献リストを配布した。

文献リストには、中公新書、岩波新書、講談社現代新書などのように書店や図書館で簡単に手に入りやすいものを取りあげた (最近の学生はアマゾンで和辻哲郎の『風土』岩波文庫など 100 円で買って翌週の授業にもってくる。もっと書店で本を見る習慣も身につけてほしいと思う)。また、山川出版社の世界史リブレットやリーフレットなどもとりあげた。これらの図書は教育学部図書館学生用推薦図書や重点図書の際に教材の充実化が図られており、学生も OPAC を使って検索して次の授業にもってきた。中公新書は日本史や世界史や政治・経済などに登場する人物を取りあげたものが多いので図書館で常備してもらいたいと思う。

受講生は高等学校の免許を取得しようとする 2 年生 8 名、3 年生 2 名、4 年生 1 名であった。レポート課題を出すにあたって信州大学の図書館ポータル MyLibrary の検索方法を教授した。これからレポートを書いたり、演習で発表したり、教育実習の教材研究や卒業研究の執筆に役に立ててほしいと思うからである。

文献リストを配布した後に、文献の原本を机の上において、受講生はこれらを囲むように円陣を組み、授業者がこれらの文献について解説をした。授業の最後に B4 判の画用紙と模造紙を受講生に配布した。

六辻彰二『世界の独裁者—現代最凶の 20 人』(幻冬社新書) のような新書は文献リスト

にはとりあげなかったが、興味深いので簡単に紹介しておこう。この本は米紙『ワシントン・ポスト』の週末誌『パレード』が毎年発表している「世界最悪の独裁者ランキング」2011版に準拠して20名をとりあげたものである（六辻 2011）。

アフリカをとりあげると、ジンバブエのロバート・ムカベ、スーダンのオマール・アル・バシール、エリトリアのイサイアス・アフオルキ、リビアのムアンマル・アル・カダフィ、赤道ギニアのテオドロ・オビアン・ンゲマ、エチオピアのメレス・ゼナウイ、チャドのイドリス・デビー、スワジランドのムスワティ3世、カメルーンのポール・ビヤがあげられている。ジョージ・アイッティもアフリカの独裁者をあげているが重複しているものが多い（Ayittey 2011:9-15）。アフリカ以外には、北朝鮮の金正日、ミャンマーのタン・シュエ、サウジアラビアのアブドラー・ビン・アブドルアジーズ、中国の胡錦濤、イランのハメネイ、トルクメニスタンのベルディムハメドフ、ウズベキスタンのカリモフ、シリアのアサド、ベラルーシのメカチェンコ、ベネズエラのチャベス、ロシアのプーチンである。テレビのニュースや新聞によく登場する人物である。

表1 世界の指導者（文献リスト）①

大内宏一『ビスマルク—ドイツ帝国の建国者』山川出版社，2013年
飯田洋介『ビスマルク—ドイツ帝国を築いた政治外交術』中公新書，2015年
渡辺和行『ド・ゴール—偉大さへの意志』山川出版社，2013年
富田浩司『危機の指導者チャーチル』新潮選書，2011年
河合秀和『チャーチル 増補版』中公新書，2012年
木畑洋一『チャーチル—イギリス帝国と歩んだ男』山川出版社，2016年
高田博行『ヒトラー演説—熱狂の真実』中公新書，2014年
横手慎二『スターリン—「非道の独裁者」の実像』中公新書，2014年
ロベール・ドリエージ『ガンジーの実像』今枝由郎訳，白水社・文庫クセジュ，2002年
竹中千春『ガンディー—平和を紡ぐ人』岩波新書，2018年
池田美佐子『ナセル—アラブ民族主義の隆盛と終焉』山川出版社，2016年
辻内鏡人・中條献『キング牧師—人種の平等と人間愛を求めて』岩波ジュニア新書，1993年
上坂昇『キング牧師とマルコムX』講談社新書，1994年
黒崎真『マーティン・ルーサー・キング—非暴力の闘士』岩波新書，2018年
松尾弑之『JFK—大統領の神話と実像』ちくま新書，1994年
田久保忠衛『戦略家ニクソン—政治家の人的考察』中公新書，1996年
大嶽秀夫『ニクソンとキッシンジャー—現実主義外交とは何か』中公新書，2013年
矢吹晋『毛沢東と周恩来』講談社新書，1991年
ベンジャミン・ヤン『鄧小平 政治的伝記』岩波現代文庫，2009年
エズラ・F・ヴォーゲル『鄧小平』（上・下）日本経済新聞出版社，2013年
村田晃嗣『レーガン—いかにして「アメリカの偶像」となったか』中公新書，2011年

第3回の授業では、第2回の授業で課題として出した世界の指導者に関する「新聞づくり」の発表を行った。これらの新聞には、①エカチェリーナ2世にインタビュー!、②毛沢東新聞、③アドルフ・ヒトラー、④独裁新聞 非道 ポルポト政権 大虐殺、⑤二つの大戦を生きた指導者・スターリン、⑥歴史新聞 エイブラハム・リンカーン、⑦21世紀新聞メルケル 間もなく 独首相辞任へ、⑧ビスマルク新聞、⑨ジョン・F・ケネディ新聞、⑩ビスマルク新聞 鉄血宰相!! ドイツを統一した凄腕、⑪キューバ新報、があった。

小・中学校、高等学校の教育現場では新聞を学習材料とするNIE（教育に新聞を）が行われている。新聞づくりは小・中学校、高等学校の教員をめざす学生にとって必須のスキルである。

第4回及び第5回の授業は、第2回の授業のときに配布した模造紙をもちいて講義室の壁に貼り「壁新聞」をつくった。受講生は2班に分かれて発表をした。教育学部では2019年度から100分授業が導入されて、アクティブラーニングという学生の能動的な、つまり受動的ではない学習活動を取り入れた教育方法がとてもしやすくなった。

発表前に受講生は付箋紙をもって他の受講生の壁新聞を読んで質問などや疑問点などを貼り付ける。受講生は教育臨床関係の授業でこうした方法は慣れているので作業もスムーズに流れていく。そしていよいよ発表である。

これらのタイトルをあげると、①ロシアの女帝 エカチェリーナ2世、②毛沢東、③俺の世界征服 アレクサンドロス大王、④独裁新聞 非道 ポルポト政権 大虐殺、⑤スターリンとは一体???, ⑥歴史新聞 エイブラハム・リンカーン、⑦メルケル首相の半生と政治家として、⑧ビスマルク、⑨ジョン・F・ケネディ新聞、⑩ビスマルク新聞 ドイツ帝国の建国者、⑪チェ・ゲバラ新聞と、内容はB4判の新聞と同じものもあれば違うものもある。

2.2 「世界の指導者」のレポート発表

教育学部の受講生は前期になるとなにかと授業以外にも過密なスケジュールにおわれる。第6回、第7回の授業の週には4年生の「教育実習Ⅱ」、第10回の授業の週には3年生の「教育実習Ⅰ」がある。3年生が「教育実習Ⅰ」を履修しているときに4年生の補講をすることになっており、2年生は授業がない。介護等体験等の受講生もいればとても変則的になってくる。

そこで、第1回のレポートの課題をだした。課題は「世界のおもな指導者について個別のテーマを設定して30分以内の発表用レポートを作成すること」とし、規格は「パワーポイントまたはワード形式で、作成すること。文字のポイントは教室の画面に映して発表することに留意すること」という指示をした。締切日は「発表予定日の前日（時間厳守）」とした。第5回の授業のときに、日程調整をして第13回に4名、第14回に4名、第15回の授業に3名が発表することを決めた。

提出されたレポートの課題は、発表順ではないが、①日本の指導者 田中角栄の生涯、

②ガンディーについて、③ナポレオン・ボナパルト、④サダム＝フセイン、⑤ケマル・アタテュルクトルコ国民の父、⑥リンカーン、⑦グスタフ・マンネルヘイム、⑧ドイツの指導者ビスマルク、⑨ジョン・F・ケネディ、⑩ビスマルク新聞とプロイセン、⑪ウラジミール・プーチンであった。

3. 世界の指導者②

3.1 ビデオ教材を使う

第6回の授業では中学校、高等学校の教員採用試験で出題された問題を使って実力試験を行った。ビスマルクの鉄血政策、モンロー宣言（教書）、ロシア革命（スターリン、レーニン、ストルイピン、ニコライ二世、トロツキー）、国際連盟とウィルソン、ローズヴェルト・スターリン・ヒトラー・ムッソリーニ、ガンディー・ホメイニ・スカルノ・ナセル・ネルー、アイゼンハワー・トルーマン・ケネディ・ニクソン・カーター、バンドン会議、スエズ危機、キューバ危機、ニクソン訪中、沖縄返還、ベルリンの壁崩壊、毛沢東、蒋介石などの穴埋め問題か正しいものまたは誤ったものを選択する問題を出題した。また、2019年度長野県高等学校の教員採用試験「世界史」を出題した。小澤卓也ほか『教養のための西洋史入門』（ミネルヴァ書房、2007年）からベトナム戦争からソ連の崩壊までの文章が引用されており、下線部に関して11問が出題されている。この問題は本文を読まなくても設問だけでも解くことができる。

第7回の授業ではBS世界のドキュメンタリー「アニメ貧困史—貧しさはどこからやってきたのか」（国際共同制作、2012年）を観た。このドキュメンタリーは古代文明、古代エジプト、イスラムと仏教、インカ帝国、ヨーロッパと中南米、中国とヨーロッパ、南インド、アフリカを長期的な歴史変動のなかで貧困をとりあげたものである。タミルの詩人、ブッダ、孔子、カール・マルクス、ガンジー、ルムンバ、ケニヤッタ、ンクルマ、毛沢東、トルーマンなどの歴史上の人物が登場してくる。資本主義、工業化、共産主義、労働者と資本家、救貧院、プロレタリアート、革命、パリコミュン、アパルトヘイト、大躍進政策、児童労働、難民などを「アニメ」を通して見ることになる。受講生にとってアニメは親しみやすいようだ。だからといって「アニメ」だけでレポートを作成するというのは推奨できない。文献も読んでほしいものだ。

第8回の授業ではNHK高校講座の「地理」「世界史」などのビデオ教材を利用した。NHK高校講座「地理」（「ここに注目アフリカ！」2015年12月25日放送）の内容は「1914年当時のアフリカ」「アフリカ苦境の歴史」「アフリカの年（1960年）」「アフリカの奇跡（ルワンダ）」「変わる暮らし（ケニア・マサイ族）」「経済成長するアフリカ 21世紀のコールドラッシュ（タンザニア）」「日本の農業支援（ザンビア）」である。また、NHK高校講座「世界史」（「アフリカ諸国の独立」2016年2月19日放送）の内容は「植民地支配からの独立」「アパルトヘイトの克服」「21世紀アフリカの課題」であった。

第9回の授業では前回のビデオに登場してきたンクルマをとりあげた。ンクルマは授業

者が専門としているもので写真や映像などもかなり所蔵している。1957年3月6日のガーナの独立式典の映像などを放映した。独立式典には、世界各国の著名人が出席したこと、ニクソン、キング牧師、ジャズのアームストロング夫人など。独立式典は、1947年のインド独立式典で採用された形式にならって、深夜零時きっかりに、最後のイギリス国旗がケント公爵夫人の前で「葬送喇叭」にあわせて降ろされたことなどを解説した。また、1966年2月28日の軍事クーデタでンクルマ政権が倒された。その時にンクルマの銅像も破壊された。その後の政権交代とともにンクルマの銅像がどのように扱われたのかその処遇を解説した（なお、教材には、飯田芳弘『レーニンの首』をめぐる記憶と忘却（上・下）』（飯田 2018）、砂野幸稔『ンクルマ—アフリカ統一の夢』（砂野 2015）などを使用した）。

第10回の授業では4年生の「教育実習Ⅱ」の補講を行った。第11回の授業では第8回のビデオに登場してきたルムンバをとりあげた。ラウル・ペック監督の映画『ルムンバの叫び』（2000年カンヌ国際映画祭出品）を教材にした。これは難解すぎた。渡辺公三の「パトリス・ルムンバ」のエッセイを配布しておけばよかったかなと反省もした。逆にまた難解になってしまうかもしれない（渡辺 2009）。しかし、この時期、長野市内の映画館で上映されていた、ラウル・ペック監督の『マルクス・エンゲルス』（2017年）、アーマンド・イアヌッチ監督の『スターリンの葬送狂騒曲』（2017年）を授業のなかで紹介した。これらの映画を観たという受講生が「とても良かった」と言っていたのはとても印象的である。映画を観るだけでも新たな発想が生まれるものだ。

第12回の授業では中学校の英語の教科書「New Crown③」に掲載されている“Lesson ⑥ I Have a Dream”を教材として使用した。アメリカの公民権運動やキング牧師について学ぶことがねらいである。キング牧師については映像もたくさんあり文献もたくさんありとりあげやすい人物である。補助教材にはアリストテレスの弁論術などを提示した（岡部 1994, Glover 2011, ハーラン 2016）。

3.2 本を読むこと、原稿を書くこと

第2回のレポートの課題も eALPS を使ってだした。課題は「世界のおもな指導者についてテーマを設定して作成すること」とし、書式は社会科教育コースの卒業研究発表に使用しているものをダウンロードして2枚以上で提出することという指示をだした。締切日は8月2日（金）（時間厳守）とした（前期定期試験もあり1週間程締切日を延長した）。

提出されたレポートの課題は、発表順ではないが、①田中角栄—首相としての田中角栄、②ガンディー—平和を紡ぐ人、③絶対王政の破壊者—彼は英雄か、創造的破壊者か、④サダム＝フセイン、⑤ケマル・アタテュルク—トルコ国民の父、⑥リンカーンとアメリカ黒人の歴史—リンカーンが及ぼした影響、⑦グスタフ・マンネルヘイム—戦中フィンランドを導いた強かな指導者、⑧「外からの刺激」から見るビスマルク、⑨ジョン・F・ケネディ、⑩ビスマルクとナショナリズム—ドイツ帝国の立役者の政治、⑪ウラジミール・プーチン—大国ロシアを率いる大統領の思惑、であった。

受講生はさまざまな理由からレポートの課題を選択している。「高校の時に世界史をあまり勉強してこなかった」という学生もいる。今年度の授業の受講生には例年のことであるが日本史を学びたいという学生が多い。田中角栄以外は世界の指導者である。

受講生②は「ふと思いついた毛沢東についてまとめてみたが、あまり納得のいくものを作り上げることはできなかった。そこで少し歴史の教科書を読み、目についたのが『マハトマ・ガンディー』であった。高校までの授業では軽くしか触れなかったので『糸紡いでいる人』という印象しかなかったが、本を読んでみて深く調べていくとその程度の印象で済ましてはいけぬ歴史上の人物であった」と反省している。高等学校での勉強からの脱皮である。また、「調べていて私が不思議に思ったことの一つであるが、ガンディーはインドの人であるが、もともと南アフリカで人種差別撤廃運動に取り組んでいたのである」とも書いていたので、この受講生にはリチャード・アッテンボロー監督の映画『ガンジー』（1982年）を推薦しておいた。はたしてどんな感想が得られるだろうか。

受講生④は最初のレポートでポルポト政権について調べていた。「サダム・フセインについて調べたいと思った理由は、子供の頃ニュースでサダム・フセインの悪行が様々な形で流されていた記憶がとても強かったからである」と書いている。

「歴史や情報というのは戦争や権力争いの勝者が自分にとって都合の良いように書かれたものであるということを知ることができた」とし、さらに「歴史を学ぶ際には敗者の功績にも目を配り、事実を多角的に見る力が必要になってくると感じた」と書いている。そして最後に「授業ではポルポトについても調べたが彼の独裁政治がいかに凄惨なものであったのかを取り上げることしかなかった。今後は彼の政治を多角的に見ることで違った見解を得ることができないか考えてみたいと思った。さらにポルポトだけに限らず、未だに独裁者としての印象が強い人物について調べて、自分の見識を深めてみたいと感じた」と新たな挑戦を宣言している。授業者にとってはうれしい言葉である。その思いを卒業研究で果たしてほしいと思う。

受講生⑤は「私は今までスターリンについて調べ学習をしてきた。そこから得たことは高校で世界史を習ってきた以上に大きかった。また、調べる前までは『冷酷な指導者』というイメージを持っていた。しかしそれだけでなく実際に偉大な指導者として、ロシアでもなお語り継がれていることを知った。スターリンについてさらに学んでみたいと思ったし、彼の人間性についてもっと知りたいという気持もあった。だがより幅広い視野で捉えた時、いろんな指導者について知りたいと思った。そこで高校の世界史では学んだけれど、あまり深くは取り上げられなかったケマル・アタテュルクについて調べようと思いこのテーマに設定した」と書いている。そして最後に「ひとりの人物について深く調べることが出来たのは私にとって非常に良い経験となった。指導者自身についても知ることが出来たし、周りの背景を知ることが出来たのは大きい」と感想を述べている。高等学校での学習から脱皮して何のための学問なのかを考えてほしい。「学びを強化し、自分の引き出しを増やして教壇に立って」とは受講生の言葉である。

表2 世界の指導者（文献リスト）②

早野徹『田中角栄—戦後日本の悲しき自画像』中公新書，2012年
 竹中千春『ガンディー—平和を紡ぐ人』岩波新書，2018年
 杉本淑彦『ナポレオン—最後の専制君主，最初の近代政治家』岩波書店，2018年
 上垣豊『ナポレオン—英雄か独裁者か』山川出版社，2013年
 酒井啓子『イラクとアメリカ』岩波新書，2002年
 酒井啓子『フセイン・イラク政権の支配構造』岩波書店，2003年
 佐藤次高編『東洋編 人物世界史4』山川出版社，1991年
 本田創造『新版 アメリカ黒人の歴史』岩波新書，1991年
 植村英一『グスタフ・マンネルヘイム—フィンランドの「白い将軍」』荒地出版社，1992年
 飯田洋介『ビスマルク—ドイツ帝国を築いた政治外交術』中公新書，2015年
 松尾弑之『JFK—大統領の神話と実像』ちくま新書，1994年
 土田宏『ケネディー「神話」と実像』中公新書，2004年
 大内宏一『ビスマルク—ドイツ帝国の建国者』山川出版社，2013年
 朝日新聞国際報道部『プーチンの実像—孤高の「皇帝」の知られざる真実』朝日文庫，2019年
 グレンコ・アンドリー『プーチン幻想「ロシアの正体」と日本の危機』PHP新書，2019年

文献

- 阿久津昌三，2017，eALPS を活用した文化人類学の授業実践報告—世界のおもな農作物と家畜—，教育実践研究（信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター紀要），第16号，pp.69-77
- アリストテレス，2014(1992)，弁論術，戸塚七郎訳，岩波書店
- Ayittey, George B.N., 2011, Defeating Dictators: Fighting Tyranny in Africa and Around the World, Palgrave Macmillan, New York
- Glover, Dennis, 2011, The Art of Great Speeches, Cambridge University Press
- ハーラン，パトリック，2016，大統領の演説，角川書店
- 飯田芳弘，2018，「レーニンの首」をめぐる記憶と忘却（上・下），UP（東京大学出版会），No.549，pp.5-12，No.550，pp.20-28
- Ionescu, Ghita and Gellner, Ernest(eds.) , 1969, Populism: Its Meaning and National Characteristics, Macmillan
- 岡部朗一，1994，大統領の説得術，講談社
- 砂野幸稔，2015，ンクルマー—アフリカ統一の夢，山川出版社
- 六辻彰二，2011，世界の独裁者—現代最凶の20人，幻冬社
- 渡辺公三，2009，西欧の眼，言叢社

(2019年9月19日 受付)